

市長の政策理念(哲学)を問う

結いの心でイーハトーブ花巻を実現



増子 義久 議員

Q 花巻市総合計画はその将来都市像として、「イーハトーブはなまき」の実現を目指している。

「イーハトーブ」とは言うまでもなく、宮沢賢治が思い描いた理想郷のことである。市長は「イーハトーブ」という言葉にどんなイメージを持ち、賢治の精神をまちづくりにどう生かそうとしているのか。

A(市長) 政治とは市民

の暮らしを守ることであり、そのため強く優しい市民参画・協働のまちづくりを進めることが私の理念である。大切なのは市の産業振興として経済が成り立っていくことであり、その結果、住民サービスの財源、財政が確立する。市民参画・協働のま

ちづくりを進めるには市民が行政に依存するのではなく、市民と地域が自立することである。また、安心して暮らせる自立した強いまち、自分の住んでいる地域を誇りに思えるまちをつくりたい。重要なのは将来にわたり発展し続けることができる自立した自治体をつくることであり、市民が結いの心を持って助け合い、花巻市全体が光り輝くことがイーハトーブ花巻の実現になる。



花南コミュニティ会議では、宮沢賢治詩碑の前に「雨ニモマケズ」の全文を刻んだ紹介詩碑を設置しました

医療費助成で子育て支援

6300万円の増額が必要



照井 明子 議員

Q 県内の子どもの医療費助成の状況は、本年4月時点で小中学校、高校卒業まで拡充している自

治体が県内14自治体の中で広がっている。この助成は子育て支援と同時に子どもの権利を保障する子ども対策として重要な政策と考える。本市においても、高校卒業までの拡充を望むところだが、段階的に小学校卒業まで拡充する場合、いくらの

予算措置が必要となるか。
A(健康こども部長) 本市では現在就学前までだが、小学校卒業まで拡充すれば、概算で6300万円の増額予算が必要になると試算している。

の待機者は現在、本市としては何人いるのか。また、待機者の解消に向けてはどのような見通しを持っているのか伺う。
A(市長) 特別養護老人ホームの待機者については、平成21年度末現在、在宅での待機者は213人となっている。待機者解消に向けては、第5期介護保険事業計画の中で給付と負担の適正なバランスをみながら検討していく。

うつ病への正しい理解と周知

保健活動の充実と普及啓発を図る



藤井 幸介 議員

Q 「うつ病」は本人はもとより周りのかたがたの病気への正しい理解が大事であることから、周知

について今後の市の取り組みはどうか伺う。
A(健康こども部長) 本年度は、保健推進委員や市民を対象に市内12箇所で「ストレスとこころの健康」をテーマに講演会を開催して普及啓発に努めている。患者を抱える家族等を対象にして病気

への理解や対応について学ぶ家族教室も計画している。広報やコミュニティFM、健診等の機会をとらえて、うつ病について正しい理解が図られるよう周知する。

Q 公有財産の活用策
A(総務部長) 公共施設における自動販売機設置は、設置希望者の申請に基づき、施設利用に支障がない範囲において許可し使用料を徴収している。現在設置されている自動販売機の更新時期等に合わせ、公募方式に移行可能な事案について、導入を検討する。



公共施設に設置されている自動販売機(市役所本庁市民ホール)

地域協議会の位置づけと方向性

地域協議会は広域の視点で提言を



櫻井 肇 議員

Q 「合衆市」構想における地域協議会の位置づけと方向性について伺う。合併時に、旧3町の合併

への住民の不安に対処するために、3地域にそれぞれ地域協議会が設置されたが、「合衆市」構想の中で協議会の位置づけ、方向性が見失われてくるのではないかと。合衆市構想は、地域の自立と協働の推進を図り、安定した地域づ

くりを進めるためのものであり、また、地域協議会の役割はこれまでと同様に総合支所が管轄する区域、あるいは市政全般にわたりより広域の視点で提言を発信していく機関としての役割や位置づけであり、今後とも変わるものではない。

Q 肺炎球菌ワクチンは種々の公費助成については、議会において請願採択されているが、助成を行う考えはないか。
A(健康こども部長) 肺炎球菌ワクチン接種への助成については現在、花巻市医師会と実施課題等を検討するための予防接種検討会を開催しながら今後の取組み方を決めていく。